

い。公民館活動の源泉は、これらの運営審議会委員の社会教育に対する熱意にあるということが相当に理解されてきたことは、今後の公民館活動の前途を明るくした感があり、すこぶる意を強うしうるものである。

その証拠として、最近運営審議会委員の研修会が県内各地において催されていることでもうかがうことができる。法的に定められた運営審議会委員の任務について、その意識が高まりつつあるというべきであろう。

整備されつつある施設・設備

施設についてみると、昭和三十一年度は、本館が二四六、分館が六五五、合計九〇一館であったが、昭和三十二年度は本館が二〇八、分館が五九二館、合計八〇〇館に減少した。

減少したということは、それが直ちに公民館活動がマイナスになったと見るべきではなく、従来の看板公民館や間借公民館が、町村合併の進展にともない整備され、その内容が充実しつつあるとみるべきであろう。

その具体的なものとして、昭和三十二年度は、独立の公民館が、本館・分館等十館が新築されている。

その他支所の転用もあるようである。さらに、職員については、昭和三十一年度は、一五五〇人であったが昭和三十二年度は、一六二七人となり、七七人の増となっている。

これを専任職員のみについてみると、昭和三十一年度は、三三八人であったが、昭和三十二年度は、三七八人となり、四十人の増となっている。この事実から考えてみても、公民館は、着着と動き出したわけである。

公民館における財政の確立

公民館が教育施設である以上、その自主的な運営や活動をおしすすめるためにも、独立した予算をもつことが必要であり、当然である。

この点については、一般的に、遺憾ながら、各市町村の財政不如意を理由に、

(公民館)

昭和三十二年 重点を置く事業計画とその実施状況計画の概要

社会教育指導者の養成	計 画 概 要	実 施 状 況
<p>○有給職員の養成 公民館職員講習会 対象、年令二十才〜三十五才未満のもの 各市町村一名 内容、公民館の基本的な性格と役割の理解と社会教育計画を実施しうる能力の養成</p>		<p>6月25日〜28日 泊4日 婦人会館</p>

民主的な新市町村建設に深い理解と熱意を示さないとあるようであるが、公民館本来の使命を果す上からも、社会教育の振興をはかる上からも住民の幸福を先づ為政者は考慮してほしいものである。

公民館職員講習会は、昭和三十一年度は、県内四か所に分れて施したが、昭和三十一年度は、県内一か所に集り、公民館の基本的性格と役割について、さらに情報交換等によって、効果的であった。参加者は一慮満足したようであり、意義があったと考えている。

第三節 青少年指導はどんなめあてでどんなことをやってきたか

青少年の自主的な学習活動をおし、次代の社会形成者として心身ともに健全な青少年の育成をはかろうと、今年

度は特に
○青少年の自主的な学習集団を育てていく

○青少年の音楽・演劇・文化等の文化活動を活発にしていこう
○青年学級の学習活動に新しい工夫を加えていく
○他の青少年指導機関との協力体制をととのえていくといったところに重点をおき、つぎのような事業を実施してきた。

青年学級研究集会

「勤務と生活と学習」を一体とした効果的な学習のすすめ方の研究にわらわをおき、青年学級主事・講師・講師補佐を対象に、県内四か所（県北・岩代町小浜公民館5月27・28・29日、県南日和田公民館5月14・15・16日、会津積慶5月8・9・10日、浜、久之浜5月21・22・23日）二泊三日で実施、内容は講義（「学習の形態」二時間）のほかは、現場の生の問題をだし合つての共同研究と教育キャンプ・サイクリング等の野外活動の実技の研究を主にすすめた。

青少年指導者講習会

これまでの青少年団体ならびに青年学級のあり方を再検討し、新しい集団活動の方向を究明すると共に、共同生活をとおして集団指導の理論と方法技術の習得をねらいとして、二十五才以下の青少年を対象に地方講習を県下四か所（県北土湯7月27・28・29日、県南玉川7月16・17・18日、会津押立7月22・23・24日、浜、鹿島、8月2・3・4日）二泊三日